

ブラッシュアップ講習会のご案内

「BU-6 理論」

内容：理論 総合復習

開催日：2016年2月13日(土)～14日(日)

受付期間：12月25日～1月6日

会場：横浜会場 (MLAJ セミナールーム)

申込専用メールアドレス brushup06@mlaj.jp

「BU-7 MLD」

内容：MLD 総合復習

開催日：2016年3月19日(土)

受付期間：2016年2月6日～2月16日

会場：横浜会場 (MLAJ セミナールーム)

申込専用メールアドレス brushup07@mlaj.jp

「BU-8 Bdg」

内容：Bdg. 総合復習

開催日：2016年3月20日(日)

受付期間：2016年2月6日～2月16日

会場：横浜会場 (MLAJ セミナールーム)

申込専用メールアドレス brushup08@mlaj.jp

特別講習会のご案内

特別講習会

『放射線療法の理論と放射線性線維症に対するアプローチ』

講師：西村 哲夫 先生、佐藤 佳代子 先生

開催日：2016年1月23日(土)

受付期間：12月4日～12月15日

会場：横浜会場 (MLAJ セミナールーム)

申込専用メールアドレス tokubetsu04@mlaj.jp

佐藤 佳代子 特別講習会

(会員限定2日間コース)

『外性器リンパ浮腫のケア』

講師：佐藤 佳代子 先生

開催日：2016年1月27日(水)～28日(木)

受付期間：12月15日～12月24日

会場：横浜会場 (MLAJ セミナールーム)

申込専用メールアドレス tokubetsu05@mlaj.jp

医療者向け公開セミナーのご案内

LT 更新クレジット対応講習会

医療者向け公開セミナー

『リンパ浮腫の診断と治療

—複合的理学療法とは—』

開催日：2016年1月24日(日)

受付期間：11月10日～12月17日

会場：横浜会場 (MLAJ セミナールーム)

備考：LT 更新クレジット3単位取得

申込専用メールアドレス seminar02@mlaj.jp

医師対象 特別講習会のご案内

医師対象 特別講習会

『明日から診察に役立つリンパ浮腫診断法

—基礎から医療連携まで—』

開催日：2016年4月24日(日)

受付期間：2016年3月1日～3月17日

会場：横浜会場 (MLAJ セミナールーム)

※詳しくは、チラシをご覧ください。

申し込みは、メール(※申込専用アドレスから)、2015年度講習会パンフレットにある申込専用ハガキ、または官製ハガキにてお申し込みください。

講習会の内容は、講習会パンフレットまたは協会ホームページ(<http://www.mlaj.jp/>)に掲載されています。**お問い合わせ・資料請求等**日本医療リンパドレナージ協会 事務局
045-325-9891 (火～金 11:00～17:00)**MEMBER'S
MAGAZINE**

MEDICAL LYMPHDRAINAGE ASSOCIATION OF JAPAN

日本医療リンパドレナージ協会

会報**Vol.31**
2015 winter2015年
冬号

Contents

特集『第11回学術大会』
レポート

1 2 3 4

さとう先生の施設紹介
ニュース・トピック

5

医師対象特別講習会のお知らせ
ボクはりんふお君

6

講習会のご案内

7

特定非営利活動法人
日本医療リンパドレナージ協会

〒231-0033

神奈川県横浜市中区長者町5-85

明治安田生命ラジオ日本ビル4階

TEL:045-325-9891 FAX:045-325-9892

<http://www.mlaj.jp/>

[今号のカバーフォト / Photo & text by P.W.]

ゲーバーで

いつも勝つのは

リンパ流



特集!

9月26日(土)に開催された第11回学術大会を、特集で報告します!

『第11回学術大会』レポート

第11回日本医療リンパドレナージ協会学術大会

教育講演1『リンパ浮腫診療の実際』文:MLAJ認定教師 阿部 聡

教育講演1では臨床経験豊かな小川佳宏先生によるリンパ浮腫診療を舞台上で再現する形で、実際の患者さんにご協力いただき、問診・視診・触診およびエコー機を使用して診察の

すすめ方の実演が行われました。

まず講義の最初には、リンパ浮腫診療には他の疾患同様、チーム医療や早期診断・治療が必要であるということ、重症例は減少しているが、放射線治療や抗がん剤治療を併用することで、周径値は細くとも皮膚が硬く関節の拘縮をきたすような浮腫が増加しているという説明がありました。また、より早期から治療が開始されることが理想的であり、症状が急激に発症・進行・発赤することがある抗がん剤の投与期間中においても、複合的理学療法を併用することは可能とのことでした。ただし、圧迫しすぎると動きが悪くなるため、手を握る運動をなるべく多く行うことと、弾性包帯に比べて弾性着衣を使用の方が皮膚が硬くなる傾向があるため、注意してほしいとの指導がありました。

リンパ浮腫指導管理料が保険収載されてから発症早期に来院される患者さんが多くなってきておりますが、来院当初の軽症な状態を維持するためには、初診時の適切な診察が重

要になります。そのため、患肢と健常肢の差が少なくても、問診・視診・触診といった基本的な診察を行い、リンパ浮腫の可能性があれば、超音波検査を行い皮膚の状態を確認する必要があります。リンパ浮腫は皮下組織の組織液が増加しているため、皮膚直下を確認しやすい超音波検査は浮腫の量的・質的判断に有効であり、また、リンパ浮腫との鑑別が必要な静脈性浮腫や廃用症候群による浮腫なども超音波検査により特徴的な所見がみられるため、初診時にも可能な限り行うべきと考えられているとのことでした。

また質疑応答での「早期診断をどのように啓発していくか」という質問に対して、「各地で行われるセミナーでは看護師の受講が多いが、基本的に診療の最初の窓口となるのは医師であることから、来年度は当協会でも医師向けのセミナーを企画している」とのこと、また、「LTと医師がさらに連携できるような環境が必要であり、そのために保険適用も含めた整備が必要である」とのご意見がありました。

小川先生の講演を通じて得ることができた数多くの学びが、今後一層セラピストの皆さんの治療に役立ち、将来的に早期発見・早期治療がリンパ浮腫診療の基本となることを期待しております。

小川佳宏先生の
エコーによる診察エコーをあてた
患部の映像↑
エコー画像

当協会初となる『医師対象特別講習会』を開催します!

日本全国で、実際の患者数より潜在的にリンパ浮腫を抱えている方々が大勢いらっしゃることは想定されていますが、そうした方々がむくみを感じた早い時期にかかりつけの医師に相談し、その段階でリンパ浮腫と診断できれば、より早くリンパ浮腫の治療を開始することが可能となります。

近年、全国のセラピストのご活躍が増えつつあると同様に、医師からのリンパ浮腫治療への関心も高まってきており、以前と比べて治療環境が整ってきておりますが、リンパ浮腫に精通している医師が多くいらっしゃることはまだまだ言えない状況です。リンパ浮腫の治療は、まず医師の診断から始まります。リンパ浮腫に対する正確な診断が、地元の一般診療所でも可能となれば、お悩みのある方はいつでも気軽に相談できるようになります。この理想に近づけるために皆様とともに一歩ずつ前に進みたいと思い、この度、「医師対象特別講習会」を新企画として設けさせていただきました。

当協会でも初となる医師を対象としたワンデーセミナーでリンパ浮腫診断に必要なポイントを簡単に確認いただけるよう、エコー実習を含めてプログラムを組んでおります。この講習会を機に、リンパ浮腫治療に関心を持たれる医師がさらに増え、そして医療リンパドレナージセラピストとの医療連携によって、患者さんを全面的にサポートできるような社会になることを目指しております。是非、会員の皆様のお近くの医師の方々にもお知らせいただけましたら、大変嬉しく思います。

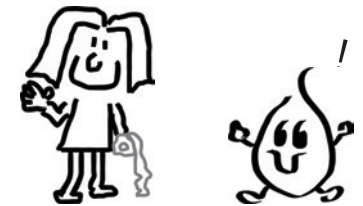
『明日から診察に役立つリンパ浮腫診断法』
開催日:2016年4月24日(日)
場所:横浜セミナールーム
※詳細についてはチラシ等をご覧ください。

ポクの紹介ページができたよ!

詳しくはWebで

<http://www.mlaj.jp/gaiyou/character.html>

ポクは りんぷお君 ⑫
「バンデージ圧加減に注意!」の巻
P.Wagner





全国各地で活躍するセラピストや施設を佐藤佳代子先生が紹介します！

さとう先生の施設紹介

美しいリアス式海岸の岩礁を誇る岩手県沿岸部。2009年1月、地域医療基幹病院として機能する「岩手県立宮古病院」内に、当協会セラピストでもある婦人科医・善積昇先生率いる「リンパ浮腫外来」が開設されました。累計患者数は960人(10月末現在)、毎週火/木、第1/3水曜日に、看護師2名、理学療法士1名の体制で診療にあたられています。同年、善積先生の働きかけにより、岩手県では全国で唯一、県条例として県立病院において複合的理学療法が6,930円で受けられる環境が整備されました。その3年後、宮古市は未曾有の東北大地震に見舞われ、リンパ浮腫医療はやむなく一時手付かずの状態にありましたが、スタッフの皆さんの心をひとつに震災を乗り越え、診療を再開されました。被災地は未だ復興途上でリンパ浮腫患者さんの生活環境は厳しく、症状が悪化する方もおられます。経済的理由で通院できない患者さんも多く、一刻も早い保険診療取載が望まれています。

善積先生は長年の地域医療の貢献に対し、厚生労働大臣より産科医療功労者として表彰され、日々、セラピストの松館久美子さん(Ns)、芳賀真由美さん(Ns)、佐々木麻記さん(Pt)と共に、患者さんの心に寄り添う医療を大切にされています。



【写真】 左上：佐々木さん、左下：芳賀さん
中央後ろ：松館さん、右：善積先生

ニュース
トピック

初の『公開セミナー』とリニューアルした『SU-緩和』！



小川 佳宏 先生（公開セミナーにて）

去る8月9日『医療者向け公開セミナー』が、開催されました。リンパ浮腫医療に初めて触れる方や、当協会の養成講習会への受講を考えている方など、多くの方が参加されました。また、他の養成機関を卒業した方の参加や、医師の方々の参加も多く、リンパ浮腫医療への関心が高いことが伺えました。今年度2回目の『医療者向け公開セミナー』は、2016年1月24日に開催します。（詳しくはチラシをご覧ください。）

本年度よりリニューアルした『スキルアップ(SU)-緩和』。2日間コースで、医師と看護師の理論講義と、現場で安全にアプローチできるMLD、Bdg.療法を、具体的な症例を元に行います。既に2回の開催が終了しておりますが、いずれも定員を大きく上回る申し込みがあり抽選となりました。非常に好評であったため来年度もこの形で企画しておりますので是非ご検討ください。



祖父江 由紀子 先生（SU-緩和にて）

教育講演2『重症度別のリンパ浮腫治療の実践』

文：MLAJ認定教師 笹倉 淳子

リンパ浮腫の病期は0～3期に分類されますが、浮腫症状は四肢全体に均等に生じているのではなく、様々な病期の特徴が四肢の各部位にわたり混在して生じていることが多いのが現状です。臨床現場では個別の症状や治療経過による変化を把握した上でケアすることが求められます。教育講演2では演者の佐藤佳代子先生がこれまでの臨床で培ったことを基盤として、病期別の効果的なアプローチについて症例を基に紹介されました。

まず施術の前に必要なこととして、①視診により皮膚の様子をよく観察し触診により皮膚や浮腫状態を丁寧に確認すること、②リンパ浮腫はより早期からの適切な診断と治療によって重症化を防ぐことが可能、③患者さんが家庭生活様式やセルフケア環境についてもお聴きし情報を共有することが大切、という話がありました。

その後病期別の施術について、動画を用いてポイントを話されました。

【1】軽度浮腫

54歳女性。子宮体がん術後2日目に右下肢リンパ浮腫を発症。浮腫が軽度のケースでは、MLDは基本的な施術で改善可能。コットンバンドエージによる軽度圧迫法を紹介。

【2】2期後期（+強皮症様皮膚硬化）

68歳女性。卵巣がん術後左下肢リンパ浮腫。薬剤（タキソテール）の影響を受けた方の6年間の治療経過。硬化組織へのアプローチおよび関節運動なども上手に取り入れながら、行う方法を紹介します。

【3】薬剤性浮腫

薬剤性浮腫ではタキサン系製剤が関与する強皮症様皮膚硬化を四肢遠位に生じることが多い。乳がん治療後に四肢に浮腫および強皮症様皮膚硬化を発症された場合、MLDは最終リンパ節を考慮し実施する必要があります。

【4】3期

50歳女性。子宮頸がん術後両下肢リンパ浮腫。専門病院に入院5回。皮膚切除術2回、LVA1回を経験されているケースでは、圧迫はスポンジ・緩衝材の工夫が必要で、足趾が硬い時は各趾にパッドを入れたり、溝が生じているところにはクッションで覆ったりする。硬いところやくびれたところには、Bdg.で円柱状に圧がかかるように形を整えていく。



様々なスポンジを紹介

その他、最新の簡易的な圧迫療法として平垣編みトウキャップ、G-HOGWAVE、BIFLEXなどを用いたセルフケアについても動画で紹介されました。さらに実際の患者さんにご協力いただき、Bdg.療法のデモンストレーションが行われました。

佐藤先生の病期に応じたMLDや圧迫療法の紹介により、常に目の前の患者さんにとって最善は何かを一緒に考えていくことの重要性を改めて考えさせられる貴重な講演でした。

第11回
学術大会
レポート

Part
2

第11回日本医療リハビリテーション学会 学術大会
会員発表 ポスターセッション レポート

文：MLAJ 認定教師 三階 文代

第2会場では学術大会ポスターセッションが行われ、口演発表は10演題(8施設)、ポスター掲示は8演題(7施設)と、多くの会員にご発表いただきました。各医療施設にてリンパ浮腫外来の立ち上げも増えている中、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・マッサージ師がそれぞれの立場から募集テーマに即した発表となり、多くの会員が熱心に聴講されていました。

口演発表では、医師の立場から重症度リンパ浮腫患者への取り組みとして、リンパ浮腫外科治療の方法や症例、リンパ浮腫減量術の方法や症例が報告され、手術の適応や術後の複合的理学療法開始時期など発表者へ多くの質疑や意見交換がくりひろげられ、関心の高さがみられました。



口演発表

看護師の立場からは、圧迫療法に関して改善効果のみられた材料について、病院内でのリンパ浮腫ケアにリハ課参画の試みと活動経緯、統合医療施設でのリンパ浮腫ケアルーム開設などが報告されました。作業療法士の立場からは入院、外来、訪問リハと3つの診療形態での活動について、マッサージ師からは

在宅診療医とターミナル患者の医療連携での取り組み、行政やリンパ浮腫患者と共に取り組んでいる活動について、高齢者のセルフケアが向上した症例の報告と、いずれも抱えている問題解決にむけて様々な工夫を試み具体的かつわかりやすい内容でした。



ポスター掲示

ポスター掲示においては統合メディカルセンターでのリンパ浮腫ケアの開設、原発性患者(幼児期)、バンデージ受け入れ困難な患者、高齢下肢深部静脈血栓症患者、関節リウマチ患者への複合的理学療法介入について、圧迫用品の簡易化、集中治療の試み、継続可能なセルフケアの工夫など多岐にわたり報告されました。症例報告に関しては、リンパ浮腫治療に携わっているセラピストならではの臨床における個別対応の重要性が一層感じられました。

ポスターセッションで発表・掲示された内容が、今回の学術大会のテーマである「明日のリンパ浮腫医療を創る～臨床経験を診療に生かして～」に繋がっており参加された皆さんの臨床活動に活かされますことを願っています。

第11回日本医療リハビリテーション学会 学術大会
症例検討 レポート

文：MLAJ 認定教師 田子 勇生

症例検討の座長はリムズ徳島クリニック院長の小川佳宏先生、解説は後藤学園附属マッサージ治療室の室長の吉田洋子先生が務めた。



解説の吉田 洋子 先生と、座長の小川 佳宏 先生

3名の演者が症例を発表したが、テーマはそれぞれ「熱傷患者に対するMLD」、「重症化した下肢リンパ浮腫」、「終末期の下肢リンパ浮腫」と、臨床でも医療従事者が頭を悩ます症例であった。大変興味深かったのは、「熱傷患者の末梢性浮腫に対するMLD」だった。『OJO式用手的ドレナージ』と名付けられ、スキンリハビリテーションセンター院長のオ・ジュンオク先生がスキンケアやアロマや機能性化粧品などを用いて体系づけているアプローチ方法であった。実際の症例写真と治療前と治療後での変化では浮腫の軽減だけでなく、皮膚の変形や拘縮なども改善されている。実際の実技はオ・ジュンオク先生が解説をしながら施術を行っていった。オイルを用いての手技で滑剤を使用することにより、皮膚の摩擦による負担も軽減でき皮膚の伸張性が改善されていくことがわかった。熱傷患者の浮腫に対してもMLDが適応できるという貴重な発表であった。

また、「重症化した下肢リンパ浮腫」の患者については蜂窩織炎を繰り返し、患肢の浮腫が増強するだけでなく変形が強くなり、下腿部が70cm近くあることや皮膚が脆弱になりリンパ漏を形成してしまっているとのことだった。入院治療が必須だとは誰もが理解しているが、入院治療は現在模索中で、外来で可能なアプローチは何かということだった。吉田先生による実技のデモンストレーションでは、まずは変形部位の凹凸にクッションやロールスポンジの切れ端を用いて加工したチューブ包帯を差し込むようにして、できるだけ均等に圧迫できるように形状を整えるということだった。これにより弾性包帯が巻やすくなり、患部への圧迫圧もよりしっかりとかけることが可能ということだった。

「終末期の下肢リンパ浮腫」については積極的な治療は難しいということだったが、包帯やチューブ状の包帯を用いて状態に応じた圧迫の細かな調整が可能ということであった。MLDも同様にまずは患者様の全身状態を把握しながら心地よいアプローチが必要ということであった。

時間にも限りがあり、内容としてはまだまだ色々な提案や意見を聴きたい症例ばかりだったが、私を含め会場の皆様がこの症例検討から、臨床で使えるヒントをひとつでも持ち帰ることができたら幸いですと感じた。

[写真]
吉田先生による実技
デモンストレーション